GyouseiNews.Com The Gyousei Chosa Shimbun 行政調査新聞

＜国内情勢＞

# 「天皇は日本民族のキリストである」

この論文をお読みになる方は、筆者が先に行政調査新聞紙上に発表した「終戦論」や「国体論」と合わせてお読み頂きたい。
そうすると、この分の後半の意味が、よりよく理解できると思われる。

藤 井 厳 喜　＜国際政治学者＞

※以下の文章は、呉竹会の機関誌「青年運動・令和２年1月1日号」に掲載されたものです。

【１】

日本人は天皇という無私の存在を民族の中心に頂く事により、自らの利己主義を抑え、「公」即ち民族全体＝国家全体を重んずる事が出来る。

いざという時には、特攻隊や玉砕部隊の様に公に殉ずる事が出来るのである。

天皇は生きている自然法である。人と人、エゴとエゴ、利己主義と利己主義を調和させる道徳的力を持った聖者、それが天皇である。

天皇は同時に大自然の調和の中心に立つ聖者でもある。八百万の神々とは大自然の調和という事なのだ。日本文明は、大自然の調和と共にある文明だ。その文明の中心が天皇なのである。それは生態系の調和の中心に立っているのが天皇である、という事だ。空間的超越者としての天皇がそこに御座（おわ）します。

また天皇の万世一系を遡ることによって、日本人は時間を…歴史を…遡ることが出来る。自らの根源を…時間を…越えて、実感する事が出来る。

自らの存在の根源の「永続性」「永遠性」を実感する事が出来る。

天皇は万世一系であるが故に、過去・未来を貫く、時間的超越者でもある。

未来に向けても日本人は天皇と共に「永遠」を実感する事ができる。

有限な生に生きながら、無限・永遠に憧れるのが人間の悲劇である。

その悲劇を救済する為に天皇が存在する。

天皇と一体化する事により、日本人は「永遠の生命」を得る事が出来る。

【２】

天皇は日本民族のキリストである。民と共に現世に生きる「キリスト」である。

天皇は永遠に生きる。**「天皇陛下万歳！」**とはこの事である。

日本民族も永遠に生きる。１２６代の天皇は、人としては個別の存在でありながら、万世一系の一人の天皇である。天皇は日本民族の永遠の生命の象徴であり、永遠に生きる。それぞれの世代は入れ替わりながら、日本民族は永遠に生きる。

天皇は、永遠に生きる日本民族の救世主である。天皇は日本人に永遠の生命を与える聖なる存在である。個人は死んでも、天皇と心の絆を結ぶ事により、日本人は永遠の生命（いのち）と精神（こころ）の大樹の一葉一花となる。

日本人は天皇と共に永遠である。

【3】

天皇は日本民族のキリストである。天皇は純粋無垢なる存在でなければならぬ。その無私の純粋性を保つ為に、日本人は生命を誠に奉げる。天皇は、日本民族が造り出した民族のキリストである。天皇は、利己を超越し日本民族の為に、いつでも十字架にかかる覚悟のキリストである。そのような存在を日本民族は育んできたのである。ここにおいて、国民は即ち天皇であり、天皇は即ち国民である。

君臣一体である。天皇主権はそのままに国民主権である。天皇は、国民の為に何時でも死ぬ覚悟である。国民は、もとより何時でも天皇の為に死ぬ覚悟である。

この君臣一体の関係が顕現したのが、昭和２０年８月１５日であった。

偉大なローマ国民は、共和制・帝制の相対主義に終に耐え切れず、キリスト教という「絶対」を受け入れた。日本人は、天皇という「絶対と超越」を自らの内に持つ故に、一神教という「絶対」を受け入れる必要がなかった。

天皇という自然法とは、天皇という「絶対」である。生身の（なまみ）の「絶対」である。

【4】

日本的民主制の原理は、天皇の下の国民の平等である。天皇の下の平等から、法の下の平等も生まれる。何故ならば、天皇という自然法の根源から法の下の平等も導き出されるからである。西洋近代の民主政治の原理は、キリスト教の神の下の平等である。日本的民主制は、同時に神聖政治《Theocracy》でもある。

国民主権は、即ち民主政治である。天皇主権は、即ち神聖政治である。そして、日本においては**「国民主権＝天皇主権」**であるから、民主政治はイコール「神聖政治」となるのである。

【5】

天皇は単に祈る王、祭司王《Priest King》ではない。

天皇は祝福する聖人なのだ。ニーチェは言った。「我々は祈願する者から出て、祝福する者にならなければならない。」その通りである。

悲嘆する者から、祈願する者へ。祈願する者から、祝福する者へ。嘆く者から、祈る者へ。祈る者から、祝う者へ。魂は、より高い次元へと進化し上昇する。

聖なる次元とは、神秘の世界であると同時に、夢想や仮空の世界ではなくして、この現世に確かに存在する世界である。それは、最大の利他主義と最少の利己主義

の世界である。それは、高貴な世界と呼び替えてもよい。真の生態系の調和の世界と呼び替えてもよい。天皇が高貴であるとは、そういう事なのだ。
国民（くにたみ）と共に喜び、国民と共に悲しみ、国民の努力、日々の営みを祝福して下さる「高貴な方、聖人」それが「天皇」なのだ。

【6】

リルケは言った。
**「頌（ほ）める事、それがオルフォイスの仕業。頌（ほ）める事こそ、彼の使命」**
詩人（オルフォイス＝詩神）の仕事は、この世の出来事を祝福する事だ。
悲嘆する者から、祈願する者へ。祈願する者から、祝福する者へ。
魂の段階を昇った詩人は、聖なる次元へ足を踏み入れる。
天皇は聖人であり、詩人（歌人）である。国民の悲しみを慰め、日々の勤めを祝福して下さる歌人でもある。国民は、高貴な方に誉められれば嬉しい。
勲章・栄誉は陛下から賜るものである。天皇は最小の利己主義と最大の利他主義を併せ持つ、魂の存在の高位者である。それが「天皇が高貴」であるという事の意味である。日本民族とは、そのような天皇を自らの中心に置き、団結し続けてきた民族である。天皇なくして国民はないが、国民なくしても天皇はない。

国民は、私心なき存在としての天皇を支え、天皇は国民の信頼に応えてきた。
これが日本の歴史である。民族全体の事を吾が事と感じ、行動して下さる方が天皇である。日本の歴史と伝統を一身に具現して下さる方が天皇である。
その天皇は、日本民族の道徳的前衛でもある。
天皇に習い、日本人は誰もが無私の利己主義を離れた存在となる事を理想とする。天皇は、日本人の理想の実現そのものである。それ故に岡潔先生は言われたのだ。「皇統は、地上と天上を結ぶ蜘蛛の糸である。決して切ってはならない。」
天皇は日本民族の安寧を祈り、祝福するだけではない。
天皇は、世界人類の安寧を祈り、祝福する存在でもあるのだ。

【7】

日本は君主国である。しかし日本は、共和制の理想を実現した君主国である。
なぜなら日本においては、「公共＝君主＝国民」という理想が実現しているからである。日本は理想の共和国的君主国である。唯、国民にその自覚がないだけである。少なくともキケロ的な共和国の定義においては、そうである。
昭和２０年８月１５日の終戦に際して、日本はアテネもスパルタもローマも上回る、理想の民主政体（共和国的君主国）を完成させたのである。
かつての江戸時代の農工商階級の出身者も、黙々と特攻隊や玉砕部隊の一員として、日本国に殉じたのである。彼らは日本の殉教者となったのである。